

KSKP えのき

地域で当たり前に暮らすために

編集人：社会福祉法人えのき会
理事長：古川 未子
京都市伏見区桃山町山ノ下44-8
075-605-0303 (TEL)
075-605-0310 (FAX)
e-mail: info@enokikai.or.jp
http://enokikai.or.jp

NEWSLETTER

1984年8月20日第3種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行 定価100円

介護の人材確保はコロナ禍以前から、非常に厳しい状況が続いています。朝日新聞11/8付夕刊によると、「介護福祉の現場では、求人をかけてもほとんど反応なし、求人を出しても応募者なんていない、今がどん底状態と、ある介護サービス事業者。

求職者一人に何件の求人があるか示す有効求人倍率は、2020年度の全国平均1.01倍。介護関連職種の倍率は、3.86倍で、都道府県で最も高い東京都は6.15倍だった。

要因の一つには賃金の安さ。介護職員の19年度の平均賃金は28万8千円で全産業(役職抜き)の平均と比べても8万5千円低い。人手不足の対策に賃金の引き上げは大切だが、職場環境の改善も求められる。介護労働実態調査によると、介護関係の仕事をやめた理由は「人間関係」が最も多い23.9%で、次が「結婚・妊娠・出産・育児」の19.9%、収入は15.6%だった。厚労省の推計によると団塊の世代が全員75歳以上になる25年度には、243万人の介護職員が必要になる。40年度までに69万人が不足するとされる。(後略)

☆ ☆
介護は「女性なら誰でもできる仕事」、「アンペアワーク(対価が支払われない労働)等々、介護労働の低賃金は、この意識から抜け出せないままに今日までできたのではないだろうか。

「女がやらなければならない正当な理由はない。「ケアする性」として役割を押し付けられてきただけで」と上野千鶴子さん。

日本のジェンダーギャップ指数が156カ国中120位。この国の現状を物語っています。本気で取り組まないと、誰にも見向きされない国になるのではないのでしょうか。

初期のえのきの活動の宿泊訓練にお母様と参加され、後に「樓の家」デイサービスやグループホーム「ハックベリー」で生活されていた清水充浩さんが、9月7日に永眠されました。重度の障害があっても、人を見る目はいつもキラキラと輝き、周囲の者たちを引付ける魅力のある人でした。充浩さん、ありがとう。さようなら。



ハックベリー 井上 智尋
充浩さんとの思い出はたくさんあります。その中でも、夜勤時に毎回充浩さんの消灯前に、その日の出来事を話す時間を過ごしていました。私はその時間がとても大好きでした。

仕事に行き詰っている時や辛い時、うれしかった事などいろんな話をしていました。話をするたびににっこりと笑顔になったり、への字になったりして応えてくださる充浩さんの表情に癒され、励まされていました。喉頭分離手術をされてからは体調が不安定になる事も少なくはなく、介助にばかり集中してしまい、以前のように充浩さんとの時間を楽しむという余裕がなくなっていました。

清水充浩さん、出会えてありがとう..

2019年11月、僕が樓の家の実習を兼ねた見学で、清水充浩さんにお会いしたのが最初でした。その日は昼食時の食事介助に携わらせて頂きましたが、お互いのぎこちない距離感があつたのを覚えています。それから3か月後に僕はえのき会に入職し、充浩さんとの関りが濃くなりました。

当初のぎこちない距離感も次第に埋まり、僕の顔をみるなり満面の笑みで答えてくださるのが日常になりました。それだけでこちらのモチベーションに繋がっていききました。ただ、コロナ禍によりティへは通所せず、居室対応になることもしばしば。

介助をする事はとても大切な事ですが、それ以前に充浩さんとのコミュニケーションをもっと大切にすべきだったと反省しました。ただ介助をこなすだけではなく、本人の気持ちに寄り添いながら一人ひとりと関わる時間を作ることは必要なことだと感じました。長時間は難しくても5分でもその一人と向き合う時間を見つけることでより良い介助、信頼関係を築いていくのではないかと思います。

TVをつけてもコロナ関連一色なので「いつかどっかいきたいね」なんて会話や、夢のような話をしていました。結局は近場のドライブ以外の外出は叶いませんでしたが、それ以上に充浩さんと過ごした日々は、僕自身にとって大きな財産です。お父様、お母様、これまでたくさんご指導いただいた事、感謝いたします。ありがとうございました。

さくらの家 高橋 仁司

障害福祉に進んだきっかけ

「ボランティア活動や療育キャンプの経験がベースに」

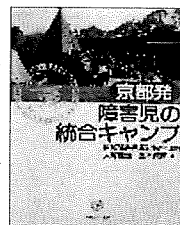
統括部長 村上高久

○ボランティア活動の出会い

幼少期、兵庫の山間部で野山を走り回っていた私は、大学生となり京都で暮らすようになります。高校時代に社会問題に関心を持ち、大学では何か挑戦したいとの思いがあつて、大学の社会福祉研究会のクラブボックスを訪れました。「障害のある子どもたちとキャンプをしない」と松葉つえの笑顔の素敵な先輩から声を掛けられ、それがきっかけで現在に至っています。もともと飯ごう炊さんやキャンプファイヤーなど野外活動の経験を田舎で積んできたこともあつて、障害のある子どもとの接点は全くなかったものの、週二回、定期的に研修会があり、いろいろ学べる機会があることが魅力でした。

最初の出会いは筋ジストロフィーの同世代の女性グループでした。十八歳で障害に対する知識も、介助すら全く経験もなく、7月にキャンプに行くため事前に顔合わせ会で車いすを介助した際、手が震えた感覚は今でも忘れません。筋肉が動かなくなり、二〇代で亡くなる方が多いと聞かされていた私は、何を話せばいいのか思いつかず、緊張した時間でした。気がつけば、家庭訪問や研修会、打合せ会とボランティア活動に没頭する日々でした。経験することが新鮮で刺激をもらい充実感を覚えることができたから継続できたのでしょう。

京都府北部にある丹後半島の久僧にキャンプ場があり、透きとおった海で子どもたちの歓声と笑顔に包まれ、「海のなかなら歩ける」と喜び姿。満天の星空の



①

もと、ゲームやダンスを楽しむキャンプファイヤー。ひたすら2時間キャンプソングを歌い続けて、その後の皿洗い。時には朝6時前から夜9時半まで厨房に立ち続けることも。夏の二カ月はとても短く感じられ、日焼けした肌と共に、今までに経験したことのない時間・財産を与えてくれました。

四回生の夏、現在ハックベリーで暮らしている障害のある女性(児童)

との出会いがありました。小学生グループで洗濯のために小麦粉、キャベツ、ちくわ等を入れて、みんなが手でかき混ぜ、角スコップでお好み焼きをした思い出があります(写真)。この療育キャンプを続けたくて、法人に就職し事業を担当することになります。二五年従事したおかげで、えのき会を創設されたお母様方とは、お子様が小学生時代から四〇年近くのお付き合いになりました。

○療育キャンプから学んだこと

水泳が苦手だった私ですが、片まひのある小学生が沖合三〇〇mにある小島まで遠泳する姿に刺激を受けました。やがて小島と高島を結び大三角形1km強を参加者と遠泳し、私自身、いつのまにか海底散策が一番の楽しみになりました。

子どもたちにとって家族から離れてのキャンプ生活。はじめは緊張から排尿がない、寝付かない、食事が摂れない、水分も摂取できない、最終日にアイスクリュームを食べてくれて、熱が下がることもありました。

また、せっかく海に来たのに体調により一度も入れないことも。担当するボランティアも苦労の連続です。しかし、毎年参加し経験の積み重ねで、海に入れる回数が増え、食事も摂れるようになり成長していく姿に会えたりもします。

また、食堂ホールではなく、屋外の集会テントでな

いと食事が摂れない子どもや、春先に、キャンプ場に着くなり寒い海にはいっていき子どもがいました。それぞれ障害特性を理解し、どのように計画するのか、事前準備が重要なことも学習しました。

障害のある子どもが数名、グループのメンバーに入る総合キャンプでは、障害のある子どもとの髪の毛をひっぱりまわす児童や、よだれが落ちそうになりながらご飯をよそってくれるのを見て、明らかに嫌な顔をする児童も。そんな生活からお互いのメンバーをいかに理解していくのか、学生ボランティアの役割は重要です。同時に彼らを支える指導者が必要となります。キャンプでは毎晩、ボランティアの悩みを聞き助言してくださるスーパーバイザーの参加のもと、ミーティングが深夜まで続き、なかには明け方までボランティアと相談することもありました。

学生ボランティアと向き合うには学生時代、専門書を読むことがなかった私でしたが、社会人になってからはケースワーク、グループワーク、対人援助技術論等、専門書を読む時間が増え、カンファレンスの重要性を知ることになりました。そのことがそれぞれの資質向上には欠かせないことをキャンプから教えられたのです。

長年従事していると、キャンパーで参加していた子どもが高校生となり、ボランティアとして支えてくれるようになりました。大変頼もしく成長した姿に苦労を忘れることも多く、随分力をもらいました。

「開拓精神」で始められた療育キャンプは、子どもたちだけでなく、多くの学生ボランティアを誕生させ、両者を成長させてくれました。今日でもこれらの経験が福祉に関わる私の原点となっています。



お好み焼を作る様子



それぞれデイサービスで
ハロウィンを楽しみました!



敬称略・順不同

ご寄付のお礼とご報告

2020年11月~2021年10月末

- | | |
|---------------|------------------|
| 奥田 希充子 | 京都府身体障害児者父母の会連合会 |
| 京都鳥羽ライオンズクラブ | |
| 山ノ下町内会 | |
| 田邊 鈴恵 | |
| 青木 亮太 | |
| 北野井 一恵 | |
| 伊藤 尚子 | |
| 前田 征子 (若桐の会) | |
| 猪鼻 さち子 | |
| 武内 和子 | |
| 清水 千賀子 | |
| 樋口 和子 | |
| 長谷川 君枝 (若桐の会) | |
| 伊藤 笑子 | |
| ベデスダの家 | |
| 谷口 登茂子 | |
| 長谷川千恵子 (若桐の会) | |
| 大谷 敏夫 | |
| 中野 敏子 | |
| 西村 昌樹 | |
| 片山 裕 | |
| 岡 千栄子 | |
| 岩垣 登美子 | |
| 勝見 九重 | |
| 内田 有希 | |
| 古川 末子 | |

いつもえのき会にご支援いただきありがとうございます。障害のある人たち、えのきの支援を必要とする人たちと共に、これからも歩んでいきたいと思っております。ご寄付ありがとうございました。

10年を経て実現したショートステイ

これまでショートステイ(家族の急用や、介護負担の軽減のため、短期間施設等に預けるサービス)の利用を希望されてきましたが、重度重複障害がある事や受け入れ体制の不備等々もあって、利用を先延ばしにしてきました。今回、えのきの家で初めてショートステイを体験されたKさん。その介護担当者となった職員の名前を記します。

えのき会に入職し、8年目になります。当時担当した利用者の方のKさんは「水分をすずめてもなかなか飲んでくれない」、「食事中に眠ってしまった」といった課題がありました。(重度の障害がある人は、水分摂取や食事一つ摂ることに、大きな困難が伴います)日々を楽しく過ごせるように密な関わりを持ち関係性を築いてきました。

話などを、改めて聞くことになりました。

3年前からKさんの通院にも同行し、生活上の問題や課題をご家族とも共有もしてきました。同僚の介護職員とも話し合い、フォローし合えるチームもできています。

これらのことから、Kさんに生活上のリスクが高まっており、何よりその負担が家族にのしかかってくることも言えます。ショートステイを始めるにあたり、ご家族より夜間の過ごし方の聞き取りをした際にも、毎晩深夜にオムツ交換や体位交換をしている

ショート当日は、グループホームの協力で調理加工された食事が提供され、しっかりと食べて、しっかりと睡眠もとれた日は、元気にデイに通所されたKさんです。介助者としては、疲れて眠気もでてくるKさんに、夜間たくさん服薬をさせなければいけないプレッシャーや、夜中に、布団に埋もれた体を反対向きに寝返ってもらって体位交換の大変さ。これらを経験するまで「身に染みて」の理解ができていなかったと気づきました。

ショート後に、ご家族から「おかげで自分の用事も出来たし、平日の真ん中でゆっくりに眠れた」と労いの言葉をいただきましたが、業務として一時的にそれを代行しているだけの自分と、日々それを続ける家族とでは大変さは比べるまでもありません。

担当者 廣坂知也



親亡き後も我が子らが安心して充実した日々をおくれることを願ひ立ち上げられたえのき会です。私が入職してからも、成人を祝ってからもなく旅立ったSさん、体調を崩し医療の設備のある入所施設を選択したIさん、次にいつ空きがでるか分からないからと入所を決断されたOさん、そして先日のSさんも。現場職員として力量の無さ、「うちがあるんだから安心してよ」と言えなかった、引き受けられなかったくやしさを感じるケースに直面してきました。

だからと言うのか、今回のKさんのショートデビューは、ささやかすぎる小さな小さな一歩にすぎませんが、まだまだ引き受け切れていないのです。それでもそんな小さな一歩を丁寧に積み重ねるしかないのも事実なのかもしれません。

ゴールはまだまだ見えていませんが、どんな場面にも「大丈夫、えのきがあるよ」と胸が張れるように、メンバーみんなで成長していきたいなあと思う次第です。

長年にわたり、えのき会を
応援してくださる皆様方に心よ
り感謝申し上げます。

昨年から今年と
コロナ禍の影響を
大きく受けて、利
用者も職員も極度
の緊張の日々を過
ごしました。

感染リスクの心
配から利用を控え
る人も多く、運営
にも影響がでてい
る状況です。

また、コロナ感
染の恐怖が払拭さ
れたわけではなく、
専門家は第6波は
くると予報してい
ます。

三回目のワクチ
ン接種や飲み薬に
ついては、年内の
実用化を目指して
いるとの報道がさ
れています。迅速
な対応を望みます。

大きな影響を受
けたコロナ感染ですが、これま
での暮らしが大きく変わられた
方もいらっしゃると思います。

えのき会にご支援をお願いします

☆ 同封致しました赤色の郵便振替用紙をご利用ください。

☆ 当法人発行の領収書は、確定申告で寄附金の控除が受けられます。
社会福祉法人えのき会 00920-6-106339

そのような状況のなか、例年ど
おり「ご寄付お願い」の案内を
することに随分躊躇しま
した、が、皆さまのそれ
ぞれお心にあわせて「え
のき会」を応援していた
できれば嬉しく思います。

こんな緊急時であるか
らこそ、えのき会のよう
な福祉サービスを心待ち
にされている人も居てく
ださることから、出来る
限りこれまで通りの支援
を届けることが、何より
も大切であるとの確信も
持ちました。

障害があってもなくて
も、人は皆、自らのそれ
ぞれの人生を、それぞれ
の形で生きていくものだ
と思います。福祉の支援
が一部分であっても、そ
のお手伝いをしているこ
と、それを誇りに今後も
支援をしていければと思
います。

皆さま方のご健康と

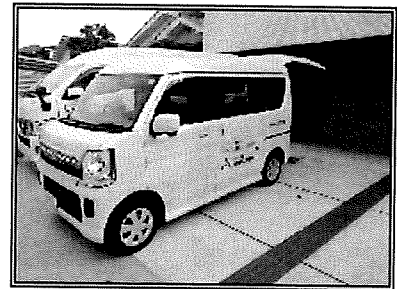
ご多幸を

心よりお祈り

申し上げます。

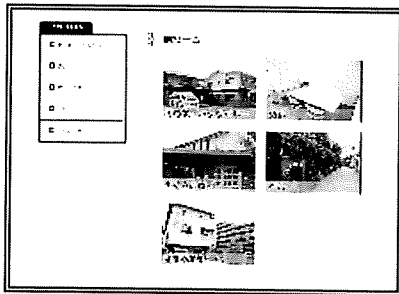


送迎車両購入費用の補助を受けました



(公財) 中央競馬馬主社会福祉財団より

ホームページをリニューアルしました!



<http://enokikai.or.jp>

前号のニュースレターで新評議員の
岡千栄子様のお名前が間違っていました。
お詫びして訂正いたします。

編集後記

はじめまして。事務局の秋山と申
します。猛威を振るっていた新型コ
ロナウイルスも、ようやく収束の兆
しが見えてきており、このまま落ち
着きますようにと願うばかりです。

さて、前号のニュースレターから、
私も微力ながら編集に携わっており
ます。まだまだ不慣れではありますが
が、今後みなさまに、いろいろな情
報や特集記事などを企画し、お届け
できたらと思っております。どうぞ、
よろしく願いたします。

「男性の皆さん、私た
ちを踏み付けるその足を
どけて」。世界で最も影
響力のある女性と言われている、現
役の最高裁判事(87歳)アメリカのルー
ス・ベイダー・ギンスバーグ氏。男
子大学の女性排除、男女の賃金格差、
投票法の撤廃など、誰もが平等に生
きられる世界の実現に向け、数多く
の社会問題に取り組んできた人です。



えのき会は出来る限り女性職員を
応援したいと、働く環境を整えてい
ます。日本社会の男性中心の働き方
をスピードを以って変えない限り、
女性が仕事以外、家事、育児、介護
など背負いきれない程の荷物を背負っ
ている状況は変わりません。足を踏
まれたままで、「痛い」と声をあげ
ても誰も振り向いてくれない現実が
あります。

(f)

□ 発行人・関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町2-2
東興ビル4F



□ 編集人：(福) えのき会 理事長 古川末子
(法人本部)
〒612-8002
京都市伏見区桃山町山ノ下44-8

